

北東アジアエネルギー接続性ワークショップ

ERINA 調査研究部主任研究員 Sh. エンクバヤル

2015年3月17～18日、ウランバートルのモンゴル外務省コンセンサスホールで、北東アジアエネルギー接続性ワークショップが開かれた。この会議は、「北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話」の精神の下、2013年4月に開かれた第7回民主党会議でTs. エルバグドルジ大統領により提唱された構想に基づくものである。モンゴル、日本、韓国、ロシア、中国、北朝鮮の各国から専門家や研究者が参加した。また、国際エネルギー機関(IEA)、国際再生可能エネルギー機関(IRENA)、アジア開発銀行(ADB)の代表者も出席した。

L. プレブスレン外務大臣による開会挨拶の後、U. プレブバートルエネルギー省副大臣による基調講演が行われた。討論は3つのセッションに分かれて行われた。セッションⅠは従来型(石炭、天然ガス、石油)、セッションⅡは再生可能型(太陽光、風、水力、バイオマス、地熱)におけるエネルギー資源、備蓄、現在の利用、将来的な協力を着目した。セッションⅢでは、北東アジアのエネルギーインフラ並びに各国間の接続性における機会と課題について話し合われた。

これらの発表と討論を踏まえ、参加者は「ワークショップ

における北東アジア諸国のエネルギー調査機関の専門家・研究者によるウランバートル宣言」という共同作成文の発表に合意した。このワークショップで出されたこの地域の各国の協力強化に対する構想や活動の主な考えや提案は、次のようなものである。

- 北東アジアのエネルギー戦略調査に関する学術的ネットワークを構築する。
- 経済協力と地域の発展を握る鍵として、信頼と相互理解を醸成する。
- 地域のエネルギー機関・専門家間で定期的に年次総会を開催し、2040年以降の北東アジア長期エネルギー予測など、地域における潜在的協力プログラムや事業に向けた勉強会を共同で開く。
- モンゴルには、石炭など従来型のエネルギー資源をだけでなく、太陽光や風力などの再生可能なエネルギー資源を豊富にあることから、インフラ整備が適切に整えられた後の地域エネルギー統合実現化におけるモンゴルの役割を強調した。

[英語原稿をERINAにて翻訳]

中国における地域発展戦略の実施現場を歩く — 福州・平潭・廈門視察報告¹ —

ERINA 調査研究部研究主任 穆堯辛

筆者は中国の地域発展戦略の実態を調査するために、2015年2月に福建省の福州市・平潭(へいたん)県・廈門(アモイ)市を訪問した(図)。福建省は中国の南部沿海地域に位置しており、内陸部より発展しているが、北には上海に近い浙江省、南には香港・マカオに近い広東省に挟まれており、2省と比べて経済発展がやや遅れている。福建省は台湾との経済協力を促進することで発展の可能性を生み出そうとしている。

1. 福州市

福建省の省都・福州市に入ると、幅広い幹線道路の両側

に近代的な高層ビルが整然と並び立つ風景もあれば(写真1)、ぼけた低層住宅が複雑に交わる電線の間隙からぬうように不規則に立ち、そうした住宅に住民たちが勝手に増築したベランダが赤茶色に錆びた防犯鉄柵に囲まれてビルの外側に突き出し、中に白やピンクの洗濯物が干してあるという、生活感たっぷりの風景も見られる。福建省の経済発展の状況は街の様子からも分かる。

2013年の福建省のGRP(域内総生産)は2兆1,760億元であり、浙江省(3兆7,568億元)の6割弱、広東省(6兆2,164億元)の3割強にすぎない。2013年の一人当たりの住民消費を見ると、福建省は17,115元で、浙江省の24,771元と広東省の

¹ 本稿はJSPS科学研究費15K21687の助成を受けたものである。